

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月10日現在

機関番号：12601  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2011  
 課題番号：20520564  
 研究課題名（和文）萩原寺聖教の調査にもとづく中世地方寺院の宗教活動に関する研究  
 研究課題名（英文）Research on religious activity of local buddhist temple in the Middle Ages based on investion of Hagiwara-ji-Syogyo  
 研究代表者  
 厚谷 和雄（ATSUYA KAZUO）  
 東京大学・史料編纂所・准教授  
 研究者番号：80143535

研究成果の概要（和文）：本研究は、萩原寺所蔵の聖教類について悉皆調査を行い、同寺聖教を歴史・宗教・文化資料として有効活用する基盤となる詳細な聖教目録の作成と聖教のデジタル撮影、その成果にもとづく中世の地方時院における宗教活動の様相を明らかにすることを目的とした。そのための調査・撮影を実施し、その成果にもとづき室町時代前期までの聖教について、函号・名称・形状・員数・本文奥書等・備考・撮影番号等の項目で構成する『萩原寺地蔵院聖教撮影目録』を刊行した。

研究成果の概要（英文）：This research investigates the Buddhist sacred book Syogyo which Hagiwara-ji owns, and studies history, religion, and culture. In order to use Hagiwara-ji-Syogyo effectively, the detailed list used as the foundation is created. Hagiwara-ji-Syogyo was photographed for research. It clarifies the religious activity of the local temple of the Middle Ages. Therefore, Hagiwara-ji-Syogyo was investigated and studied. The result of research is under a list, and was stored and released.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、中世史、聖教、密教、真言宗、四国、地方寺院

1. 研究開始当初の背景

(1)寺院に伝来した文献史料（寺院史料）は、日本中世史の研究素材として、非常に大きな役割を果たしてきた。このことは、現存する中世史料のなかで寺院史料の占めている比率の高さからすれば当然だといえる。しかし、これま

で研究者の関心は、寺院史料のなかでも専ら古文書に集中し、量的に膨大な宗教活動に関する史料（聖教）はあまり注目されることがなかった。  
 (2)この状況は、近年に於ける文化財調査の成果としての各種目録の公刊や、永村眞氏に代表される寺院社会史研究

の進展によって大きく変化しつつあるが、そこでもなお、調査・研究対象の偏在という問題が存在した。すなわち、上記の研究動向のなかで重要な役割を果たしてきたのは、仁和寺・醍醐寺・大覚寺・随心院・勸修寺・東寺観智院・青蓮院・東大寺・興福寺・西大寺・薬師寺・石山寺など、京畿所在の大寺院に伝来した聖教に限られているのである。

(3) これら京畿所在の大寺院所蔵聖教が質と量の両面に於いて、現存する中世聖教の最も重要な部分であることは間違いない。だが、中世寺院の宗教活動を全体として把握するためには、地方寺院に目を向けていくことが絶対に必要である。そして、研究代表者厚谷及び連携研究者石上を中心とする東京大学史料編纂所内の研究グループにより、1988年から20年にわたる継続調査により、その全貌が明らかになりつつある萩原寺所蔵聖教は、地方寺院に伝来した史料のなかで質・量ともに優れた中世聖教群だといえる寺院史料であり、同寺所蔵聖教こそが上記の問題点を克服するための格好の素材だと考えるに至った。

## 2. 研究の目的

香川県観音寺市（旧大野原町内）に所在する巨龍山地蔵院萩原寺は、真言宗の古刹であり、江戸時代には四国有数の有力寺院であった。創建は平安時代にまで遡り、実質的には、南方に位置する香川・徳島県境の山岳寺院・雲辺寺の里坊から発展したものだと考えられる。南北朝時代以前について、その具体的な様相を知ることは困難だが、宝徳元年（1449）に示寂した中興・真恵の時期からは、守護細川氏の帰依を得たことも手伝い、寺勢を伸張したことが確かめられる。真恵は、若年のころ高野山で修学し、聖教の蒐集にとめるとともに、醍醐寺遍智院成賢から分流した六方の法流を遍智院宮聖尊が束ねた六方大事（六方憲深方）と称される小野流の一流をはじめ、野沢両流に及ぶ東密の諸流を伝えた。このため、萩原寺（地蔵院）は、西讃・東予における真言密教の一大拠点として重要な役割を果たすことになった。その後も室町期の歴代住持によって聖教が蓄積され、現在も同寺には、断簡を含めて5000点以上の聖教が伝来している。平安時代のものこそ7点に過ぎないが、16世

紀以前の聖教が約8割を占めており、地方寺院に伝来する中世聖教としては屈指のものだといってよい。

本研究は、この萩原寺所蔵の真言密教に関わる聖教類について悉皆調査を行い、その成果にもとづき中世の地方寺院における宗教活動の様相を明らかにするとともに、同寺聖教を歴史・宗教・文化資料として有効に活用する基盤を形成することを目的とするものである。具体的には、以下の二つの課題を設定する。

(1) 詳細な聖教目録の公刊と聖教のデジタル撮影

① 史料の悉皆調査における最も重要な課題は、史料の文化財としての保全を果たすための台帳として機能するとともに、学界・研究者の共有財産（研究基盤）になる、正確で詳細な目録の作成である。

② 史料の保全を第一に計ると同時に、目録作成作業の効率を向上させ、さらに将来的な公開までを見据えて、研究期間中に少なくとも室町時代中期以前の聖教のデジタル撮影を行う。

③ ごく少数であるが、同寺から流出した聖教の存在が知られおり、京都大学附属図書館・香川県歴史博物館等に所蔵されていることを確認しており、これら寺外流出史料の調査を行う。

(2) 中世地方寺院の宗教活動の様相の解明

① 萩原寺聖教を主な素材として、室町時代を対象に、萩原寺を中心とする西讃・東予地域における宗教活動を明らかにする。具体的には法流・聖教の伝授、および聖教の書写について、僧名および寺院・道場名に留意しつつ検討をすすめる。

② 寺僧個人に即した情報の整理。例えば、萩原寺の中興・真恵の活動を明らかにすることは、京畿方面と地方寺院との交流、法流の伝播について解明することにつながる。また、真恵の蒐集した聖教の全体像を把握することによって、1400年前後におけるモノとしての聖教の存在・流通形態を探る手がかりを得ることができる。

## 3. 研究の方法

(1) 萩原寺への出張調査・撮影：各年度に於いて、2回ずつ、5日程度地蔵院萩原寺に出張して、聖教の調査を実施し、聖教については調書の採取を進めるとともに、年代順に整理しながらデジタ

ルカメラによる高精細な撮影を行う。また、調書の採取完了後は、目録原稿について原本校正を行う。(2)調書データの入力・校正：調査時に採取した調書データをPC上のデータベースソフトに入力してデータ化を計るとともに、その確認・校正を行いながら、同寺聖教の再整理作業を行う。

(3)目録原稿の作成：聖教のデジタル画像と調書データの双方を確認しながら、詳細な目録原稿を作成する。

(4)中世萩原寺の宗教活動に関する研究：萩原寺に関する史料の発掘に努めるとともに、入力データ及びデジタル画像により同寺聖教の分析・検討を行う。また、同寺に伝来する中世文書についての研究を深化させ、聖教から得られる知見と見合わせることで、萩原寺の地方寺院としての宗教活動の様相を明らかにするとともに、その成果を目録の作成に反映される。

#### 4. 研究成果

本研究は、(1)萩原寺所蔵の真言密教に関わる聖教類について悉皆調査を行い、同寺聖教を歴史・宗教・文化資料として有効活用する基盤となる①詳細な聖教目録の公刊と②聖教のデジタル撮影。(2)その成果にもとづき中世の地方寺院における宗教活動の様相を明らかにすることを目的とした。以下、この課題に即しながら、研究成果の概要を記すことにする。

(1)詳細な聖教目録の公刊と聖教のデジタル撮影

①各年度において、2回ずつ、5日間程度、地蔵院萩原寺に出張して、聖教の調査を実施した。聖教について調書の採取を進めるとともに、年代順に整理しながらデジタルカメラによる高精細な撮影を行った。また、同寺所蔵の中世文書等についてもデジタル撮影を完了した。調書の採取については、江戸時代までの聖教について、ひととおり完了することができた。デジタル撮影については、室町時代前期(途中)までの聖教類についての撮影を終了した。

②調査時に採取した調書データをPC上のデータベースソフトに入力してデータ化をはかるとともに、その確認・校正をおこないながら、同寺聖教の再整理作業を行った。調書については、全点の入力を完了した。再整理作業については、室町時代後期までの聖教に

ついて終了した。

③聖教を撮影した画像と調書データの双方を確認しながら、室町時代前期までの詳細な目録の原稿を作成し、デジタル撮影が完了し、公開が可能となった室町時代前期(途中)までの聖教について「萩原寺所蔵聖教撮影目録」と題して公刊した。

(2)中世地方寺院の宗教活動の様相の解明

萩原寺の中興開山である真恵について史料の発掘につとめ、①真恵置文写(大覚寺所蔵聖教)や②萩原寺地蔵院衆分引付(萩原寺文書)などの重要な新出史料を見いだした。これらと調査対象の聖教とをあわせて分析することで、当該期の萩原寺の宗教活動の様相を具体的に明らかにすることが可能になった。すなわち、真恵置文写(江戸時代書写)を分析することで室町時代中期における萩原寺聖教の整理形態について見通しを得ることが出来た。また萩原寺地蔵院衆分引付(室町時代後期書写)を分析することで、中世における萩原寺の讃岐・伊予・阿波等三カ国に及ぶ、地方寺院としての宗教活動の様相について見通しを得ることが出来た。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

①末柄 豊、慈尊院聖教古目録二種、勸修寺論輯、査読無し、9巻、2012年、5～35頁

②末柄 豊、畠山義総と三条西実隆・公条父子一紙背文書から探る一、加能史料研究、査読無し、22号、2010年、1～27頁

③末柄 豊、『不問物語』をめぐって、年報三田中世史研究、査読なし、15号、2008年、1～37頁

[図書](計3件)

①末柄 豊9番目(共著)、笠間書院、細川幽斎一戦塵の中の学芸、2010年、171～188頁

②厚谷和雄1番目・末柄 豊6番目(共編著)、八木書店、東京大学史料編纂所影印叢書 平安鎌倉古文書集、2009年、全

③末柄 豊7番目 (共著)、慶応義塾大学  
文学部、古文書の諸相、2008年、113～  
143頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

厚谷 和雄 (ATSUYA KAZUO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：80143535

(2)研究分担者

末柄 豊 (SUEGARA YUTAKA)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：70251478

(3)連携研究者

山口 英男 (YAMAGUCHI HIDEO)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：40182456  
石上 英一 (ISHIGAMI EIICHI)  
東京大学・史料編纂所・名誉教授  
研究者番号：40092134